

別表 情報基礎演習 評価基準

本評価基準は情報基礎演習で扱う項目について学習者の達成度を評価するための基準である。レベルはこの科目の合格レベル（C）、達成目標レベル（A）、在学中に身につけて欲しいレベル（S）の3段階とした。背景が白色のものは扱わない

大項目	中項目	小項目	レベルC	レベルA	レベルS	備考
			必要な技能を不十分ながら獲得できている(演習科目合格レベル)	必要な技能を基本的なレベルで獲得できている(演習科目達成目標レベル)	在学中に身につけて欲しいレベル	実施の考慮事項と評価方法
学内情報サービスとネットワークの利用						
		学内情報サービス	学内で提供されている情報サービスを理解しているが一部のみ利用できる	学内で提供されている情報サービスを理解し利用できる	学内で提供されている情報サービスを効果的に利用して学習に役立っている	履修登録、学習管理システム(LMS)、学内ネットワークなどの利用で評価
		私物のPCなどの学内ネットワークへの接続	VPN等大学が提供するサービスを利用してPCやスマートフォンなどを援助者の支援を得て大学のネットワークに接続できる	接続における暗号化などを理解し、VPN等大学が提供するサービスを利用してPCやスマートフォンなどを大学のネットワークに接続できる	機器の特性や利用環境に応じて複数の接続方式を利用できる	実技での評価
		電子メールを用いたフォーマルなコミュニケーション				
		適切な内容のメールの作成	件名、差出人、受信者を明示したメールを書ける	件名、差出人、受信者を明示し、適切な内容と言葉遣いのメールを書ける	Cc, Bcc, Reply-toなどのフィールドを適切に利用してグループでのコミュニケーションに活用できている	メールの利用演習
		受け取ったメッセージの正しい取扱い	受け取ったメールのメッセージの適切な扱いを理解し、実践できている	同左	同左	テストなどで評価
		添付ファイル利用時の配慮	サイズが適切な添付ファイルの送受はできるがサイズの圧縮や暗号化はできない	適切なサイズ、形式の添付ファイルを送受できる。重要な内容の添付ファイルの暗号化ができる。	ファイルを送受する他の手法とその安全な利用を理解し、メールと組み合わせ適切に利用できる	メール利用演習
		授業で利用する コース管理システム などについての操作	LMSを用いたファイルの閲覧や課題の提出は行えるが教員の指示には十分に從っていない	LMSを用いたファイルの送受、課題の提出などを適切に行える	履修登録システム、LMS、学生用メールなどを適切に連携させて利用できる	LMS(PandA)の利用で評価
		情報ネットワークを利用する上での注意	情報ネットワークを利用する上での注意事項をある程度は知っているが、実践は不十分である	情報ネットワークを利用する上での注意事項を知り、適切に実践している	情報ネットワークを利用する上での注意事項について主体的、継続的に情報を獲得し、実践を改善している	情報セキュリティe-Learningの修了
大学における知的生産（梅棹忠夫の造語）とICT活用						
			大学での授業や課外活動などでのICT活用シーンを理解しているが活用は限定的である	大学での授業や課外活動などでのICT活用シーンを理解し、活用している	大学での授業や課外活動などでICTを積極的に活用している	以下の各項目で評価
パーソナルコンピュータとOS、その構成と基本操作						
		自立したパソコン所有者として、コンピュータやOSについての基本的な理解と安全な運用（セキュリティ、ソフトウェアのライセンス）について学ぶ。				
		コンピュータの仕組みとOSの役割の理解	コンピュータの仕組みやOSの役割の基本的な事項をある程度知っているが、安全な設定で利用するには他者の支援を要する	コンピュータの仕組みやOSの役割の基本的な事項をしており安全な設定で利用できている	コンピュータの仕組みやOSの役割の基本的な事項を知っており、トラブル対策や性能向上などをはかることができる	テストなどで評価
		ソフトウェアのライセンスと適切な利用	ソフトウェアのライセンスをある程度理解し、問題ない程度に利用している	ソフトウェアのライセンスを理解し、適切な状況で利用している	ソフトウェアのライセンスを理解し、適切な状況で大学の所有するライセンス、オープンソースのソフトウェアなどを使用できる	同上
		PCへの外部機器等の接続	PCのネットワークへの接続や、プリンタや外部記憶装置を接続には他者の支援を要するが、運用はできる	自分自身でPCをネットワークに接続したり、プリンタや外部記憶装置を接続して利用できる	有線・無線LANなどを適切に設定してPCやプリンタなどを接続することができる	同上
		アプリケーションを利用する基盤としてのOSにまつわる操作（ファイル、デバイス（プリンタやネットワーク）、プロセスとメモリ、ユーザ、起動と停止、GUI）を理解する。OSとしてはWindowsとLinuxのいずれかオプションとなる。	OSが管理している事項について必要な設定等を補助者の支援を得て行える	OSが管理している事項について必要な設定等が自分自身で行える	PCを効果的・効率的に利用するためにOS等の設定を行える	同上
		タッチタイピング、ショートカットキー、英文タイピングの基礎	1) タッチタイピングの指使いを理解し、ある程度実施している。 2) ショートカットキーを利用している。 3) 英文のタイピングルールを知り、実践している。 4) 適切な文字コードで入力できる。	1) タッチタイピングの指使いを理解し、実施している。 2) ~4) 同左	1) 手元を見ることなくタイピングができる。 2) マウスが使えない状況でもある程度のPCの操作が可能である。 3) 同左 4) 適切な文字コードを使用するとともに必要に応じて変換できる。	タイピング速度、英文で作成した文書
情報探索と図書館利用						
			大学図書館等が提供している情報源について理解し、必要な情報がある程度探索できる	大学図書館等が提供している情報源について理解し、必要な情報を網羅的・系統的に探索できる	大学図書館等が提供している情報源について理解し、必要な情報を効果的、効率的に探索し、批判的に利用することができる	テストや、検索演習で評価
表計算ソフトウェアによる情報の加工						
		機械処理に適したデータの表現、入力値の制限方法、データの検査	機械処理に適した表を構成できる。	機械処理に適した表を構成できる。表記揺らぎなどを避けるため入力を制限できる	レベルAに加え、入力するデータの検査を効果的に実施できる	表計算ファイル
		データ操作：データの並べ替え（ソート）や単純/クロス集計といったデータ分析の基本	データを並べ替えて分析することができる。単純集計が行える	レベルCに加え、クロス集計が行える。	レベルAに加え、データ分析の必要に応じて、複合的な条件付きの集計などが行える	表計算ファイル
		表計算ソフトを用いた数値シミュレーション	与えられた差分方程式のシミュレーションが行える	パラメータを変化させたシミュレーションが行える	自らの必要に応じてシミュレーションを構成できる	同上
		データのグラフへの可視化、学術的なレポートに必要なグラフの作成	データをグラフにプロットできるが、適切な書式を選べていない	データをプロットしたグラフが作成できる。軸の書式等が適切に設定され必要な情報が盛り込まれている	グラフの形式を主張したい内容に応じて適切に選択でき、適切な書式でグラフを作成できる。	同上
レポート作成の技法とワードプロセッサの利用						
		レポートを主とした文書のワードプロセッサ等での作成上の技法。論理的記述から物理的表現への変換、そのためのテンプレート、スタイル等の持つ意味。相互参照の自動処理				
		構造のある文書の作成	空白や改行の挿入など物理的表現を直接用いることで段落や見出しなどを構成できる	段落や見出しなどテンプレートの機能を用いて構成できる。アウトラインの機能を用いて編集ができる。	レベルAに加え、必要に応じてテンプレートの調整などができる	作成した文書

	図や表の挿入	図や表を挿入した文章を作成できる。図や表の見出し、番号を手作業で付けている	図表番号の挿入とその参照を自動化できている	レベルAに加え、必要に応じてフォーマットの調整ができる	同上
	適切な文献の書誌情報の記述とその引用、著作物の適切な引用	適切な書誌情報を付して参考文献等を挙げることができる。剽窃と引用の違いを理解し適切な引用が行えている。	引用箇所と参考文献について同一文書内で、自動的に相互参照する機能を使える。参考文献を適切に管理できる。	レベルAに加え、文献管理ツールなどを活用して文献の効率的な管理と活用ができる。分野に応じた参考文献や引用の形式を理解して、それに従って文書を作成できる。	テストならびに作成した文書
	校閲など著作物を介したコミュニケーションとそのためのスキル	印刷した文書への校閲指示にしたがって文章を修正できる	校閲機能を用いて修正個所の明示化、コメントの付与、修正の反映などが行える	他者の書いた原稿に対して校閲を行える	校閲過程
ネットワークを利用したコラボレーション					
	ファイルやドキュメントの共有などグループワークを支えるネットワーク上でのコラボレーション技法	公開されているサービスを使ってファイルにアクセスできる	公開されているネットワーク上のサービスを利用して適切なアクセス制限を行い、著作権法を遵守したファイル共有が行える。	ネットワークなどを利用してグループで円滑な活動が行える	LMSの利用
	ソーシャルメディアなどの利用における注意	ソーシャルメディア上の情報の持つリスクを理解し倫理的な行動がとれる	ソーシャルメディア上の情報の持つリスクを理解し、適切な情報発信が行える	ソーシャルメディアを適切な利用が行え、積極的に利用できる	情報セキュリティe-Learningの修了
プレゼンテーションの技法					
スライドの作成					
	スライドの構成	スライドの内容の一部、不十分な点はあるが概ね論理的に整っている	スライドの内容が論理的に整っている	聴衆に配慮したスライドの効果的な組み立てが行えている	発表もしくはスライド
	スライドへの図や表の挿入	スライドに図や表を挿入して利用できるがプレゼンテーションでの活用が不十分である	スライドに図や表を挿入して利用できる	図や表を効果的に利用してプレゼンテーションできる	発表もしくはスライド
	視覚的効果の利用	視覚的効果を使っているが使い方が十分に適切とは言えない	視覚的効果を適切に使っている	視覚的効果を効果的に利用してプレゼンテーションできる	発表もしくはスライド
プレゼンテーション					
	与えられた時間でのプレゼンテーション	概ね、時間を有効に活用したプレゼンテーションが出来る	時間を有効に活用したプレゼンテーションが行える	適切な時間配分でプレゼンテーションを効果的なものに行っている	発表
	質疑への対応	スライドを参照するのに手間取る、質疑を記録していない	スライドを参照しながら質疑に適切に答え、内容を記録している	質疑を想定した追加のスライドなどを準備して建設的な討議を行える	発表
	チームでのプレゼンテーション	プレゼンテーションを効果的なものにするためチームで共同作業がある程度できている。	プレゼンテーションを効果的なものにするためチームで共同作業できている。	チームのメンバーが欠けた時でも相互に補い合ってプレゼンテーションができる	発表と相互評価
	各種ダイアグラムやチャートなどグラフィカルな情報の表現技法	不十分ではあるがダイアグラムなど図的表現とそれを用いたプレゼンテーションが行える	ダイアグラムなど図的表現とそれを用いたプレゼンテーションが行える	図的表現にプレゼンテーションを効果的に行うための工夫を加えている	発表もしくはスライド
プログラミングの基礎（オプション）		プログラミングを体験しているが主体的にプログラムは作れない	プログラミング言語の基本的な要素を理解しており、簡単なプログラムを書くことができる	自身の問題解決の道具として簡単なプログラミングを常に利用できる	プログラミング課題で評価